



本郷町けやき通り



本郷町通り（都市計画道路 金町本郷町線）は、昭和32年に幅員33mの幹線街路として整備されました。

昭和56年まではポプラが植栽されていましたが、台風により多くが倒れたため、翌年、本郷町1丁目から都通1丁目までの約560mの区間に100本のケヤキが植栽され、現在のケヤキ並木が誕生しました。

植栽当時、高さ5mほどであったケヤキは年月とともに大きく成長し、春の新緑、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の裸木など、四季折々の風景を楽しませてくれます。

秋の紅葉の時期には、地域が主体となり、落葉清掃やケヤキ祭りなどが行われ、大切に保全・活用されてきた本郷町のケヤキ並木は、「緑のトンネル」として市民に親しまれ、岐阜市を代表するグリーンインフラとして次の世代へと受け継がれています。



受賞歴・選定歴

- 平成6年度「新・日本街路樹100景」(読売新聞社)
- 平成11年度「大気環境木のある風景10選」(岐阜県)
- 平成12年度「第20回 緑の都市賞 内閣総理大臣賞」(都市緑化機構)
- 平成15年度「緑陰道路プロジェクトモデル地区」(国土交通省)
- 平成15年度「ぎふの三十六景」(岐阜まちづくりセンター)



本郷町けやしき通り

